

奈川渡1号トンネル施工方法検討委員会(第2回)

議事要旨

1. 日 時：令和5年9月11日（月） 10：00～ 12：00

2. 出席者：

- ・ 東京都公立大学法人東京都立大学 都市環境学部教授 砂金 伸治
- ・ 国立大学法人信州大学 工学部教授 梅崎 健夫
- ・ (一社) 日本応用地質学会名誉会員 大島 洋志
- ・ 国立研究開発法人 土木研究所 つくば中央研究所
道路技術研究グループ（トンネル）上席研究員 日下 敦
- ・ (一社) 日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所長 真下 英人
- ・ 長野県 建設部 道路建設課長 栗林 一彦
- ・ 関東地方整備局 道路部 道路工事課長 山田 寧
- ・ 関東地方整備局 長野国道事務所長 小澤 知幸

3. 議事

(1) 施工工程計画について

- ・ 観光シーズンの交通への影響に配慮し、新入山隧道のオフシーズン通行止めを1年もしくは2年行う施工工程計画について、両案共に実施可能であることを確認した。
- ・ 交通形態を維持したまま近接区間でのインバート掘削を行う場合、プロテクターの設置が必要であることを確認した。

(2) 拡幅区間の支保構造・覆工構造について

- ・ 大断面の支保構造はNEXCO 要領（第二東名名神）に準拠し、その場合の最大断面の解析結果について了解するが、最大断面のロックボルトの本数に関して再度検討が必要であることを確認した。

- ・大断面の覆工構造の検討方針について了解するが、埋設型枠を併用した覆工は他の採用事例について整理し、経済性・施工性を踏まえて第3回委員会の議題とすることを確認した。

(3) 発破振動の影響を踏まえた掘削方式について

- ・ダム施設および新入山隧道への発破振動影響範囲の検討結果は妥当であることを確認した。

(4) 新入山隧道の補強対策工について

- ・簡易ボーリングと地中レーダー探査による背面空洞調査結果は妥当であることを確認した。
- ・裏込め注入と補強ロックボルトによる補強対策方針は了解するが、拡幅区間および近接区間の掘削後に新入山隧道の変状を確認し、その状況に応じて剥落対策を計画する方針であることを確認した。

以上